

山寺ふるさと便

＝創刊号＝

宝珠のしずく

題字 後藤 仁 田
(性相院)

発行所 山寺公民館

山形市山寺517
TEL 0236-95-2001 FAX 0236-95-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会



全国制覇を狙う豆選手たち (卓球スポーツ少年団)

輝け北斗七星

山寺卓球スポーツ少年団



昭和五十一年の暮れも押し迫った時に誕生した、山寺卓球スポ少!! 暗闇に皓々と灯もる体育館の窓、一歩踏み込むと、幼き団員が懸命に練習に励んでいた。どの顔にも自信と勇気が漲っている。第一声は「楽しい」の連発、きつい時もあるけれど、全国大会を目指す。全国大会三回戦の壁を破る実績。強くなりたい。お兄ちゃんも団員だったので、強くなりたい。夢は全国制覇へと向けられていた。澄んだ瞳に笑顔が美しく、心が洗われる思いであった。凍てる空には柄杓姿の七つの星が美しく輝いていた。山寺の期待の星が――

培え 精神力!!

羽ばたけ 空高く!!

父母の声

自分なりの楽しみとし、生活の中で充実したものに、積極的に一生懸命にやる姿がたのしい。卓球の楽しさと、精神力を培ってほしい。

山寺からチャンピオンを・・・

中学校に行っても活躍出来るように子供と共に汗する姿が、そこにあった。

を かけ

公民館に集う



山 寺 磐 司 太 鼓

山寺民俗芸能保存会

消えゆく芸能文化遺産を発掘継承し、また新作にも挑み、仲間づくりを進めつつ、郷土に潤いをのスローガンのもとに、地区内同好の有志によって、昭和五十三年に会長、布施与惣治さんで発足した。

レパートリーとして、山寺石切踊り、山寺願人踊り、山寺雑魚すくい踊り、二口峠馬子唄、新山寺小唄、大黒舞、吟舞奥の細道、山寺踊り、山寺

音頭、磐司太鼓等々。

発表の場としては、毎年、地区の新年顔合せの集い、敬老会、磐司祭には磐司太鼓の奉納、全国俳句大会前夜祭、地区文化祭等、その外各種イベントに要請があれば快く出演するなど、会の多彩な活動に地区でも支援している。

踊りに必要な衣裳、小道具等は殆んど自弁自作である。太鼓などは会員の拠出金や篤志寄付も仰いで整備してきた由、会員は現在、男性七名、女性十二名であるが、高齢化しているので後継者の確保が今後の課題である。

山寺蕉風会

山寺の俳句の歴史は古く、芦沢の米山薬師堂に明治十一年奉納の俳額が掲げられている。願主は南院の靈樹庵立志（五代目遠藤金兵衛氏）で二十余名の句が納められている。時を同じくして宮崎の七里庵川丈氏も「七里庵川丈句集」を発刊している。昭和に入り芦沢の伊澤不忍氏も地元の人を集め「白雲吟社」を興すなど、活発な活動を続けていたが、太平洋戦争の緊迫化と共に衰退した。それから半世紀を経て、昭和五十二年に鈴木桂花、山形理の両先生を指導者に迎えて蕉風会が誕生した。

ここに甦った蕉風会は、毎月一回の例会を重ね、四巻の合同句集を発刊し、現在第五集上梓に向け準備中である。この句集の特色は、会員の句はもとより、先人の残された貴重な句、そして大人の目では捉えることの出来ない、小中学生の句が掲載されている事である。

山寺小中学校では俳句教室も開かれ、校長先生が自ら指導にあたられ、その作品が校内に短冊にして掲げられている。

ここに将来の蕉風会を担う芽は、着実に育っていると言えるのではなからうか。

句会風景



山寺文化保存会

昭和二十三年に、山寺の貴重な文化財を保存し、継承する為、小笠原信夫先生、武田唯雄先生が中心となって創設された。

石造物の調査、歴史の研究、機関誌の発行、全国俳句山寺大会の開催などを行っている。

特に俳句大会は今年で三十九回目を迎え、毎年八百句を超える投句が寄せられ、選者も全国の有名な方々を招聘し、全国的にも権威ある大会となっている。（現会長 矢萩常善氏）



研修会(地藏堂境内)

文化の燈

山寺郷土研究会

山寺郷土研究会は平成四年の結成で比較的新しいグループである。会長の布施正善さんを訪ねて話をお伺いした。以下はそのあらましである。発足の趣旨は「温故知新」古きを尋ねて新しきを知ることにあるが、特に埋もれている昔のことをほり起こしこれを後世に伝えていきたいとの事である。

これまでの事業、勉強会の主なものとして

○山寺状の学習会 (四回)

楯岡高校教諭 梅津保一先生

○石碑等の調査方法について

高畠町考古資料館長 川崎利夫先生

○逆巻のめがね橋について

山形市郷研会長 渡辺信三先生

○峯の浦ビデオ製作

○山形テレビへ二口街道案内紹介等があった。

これからの事業として考えていることは、これまでの事を発展させていくのはもちろんであるが、

○慈覚大師の足跡をたどる勉強会

○お年寄との談話会

その他を考えている。

まだまだ勉強不足であるので地区の方々の御指導と講演会等への参加をよろしくとの事であった。



書道クラブ作品展(東京にて)



華踊会
練習風景



社交ダンス
愛好会

公民館講座

公民館は学習の場として、幅広い年齢層を対象として、講演会、スポーツ、趣味、レクリエーション等の講座を開催している。

今年度の主な学習としては、少年教室、婦人学級、家庭教育推進講座、山寺郷土史講座、英会話教室等を開催した。

とくに、英会話教室では、三年間の総まとめとして、日本語と英語版の「山寺観光案内資料」を完成させた。また、公民館の本格的な茶室でお茶講座を実施して、日本伝統文化の良さを味わってもらった。



お茶講座

略図

年3月現在

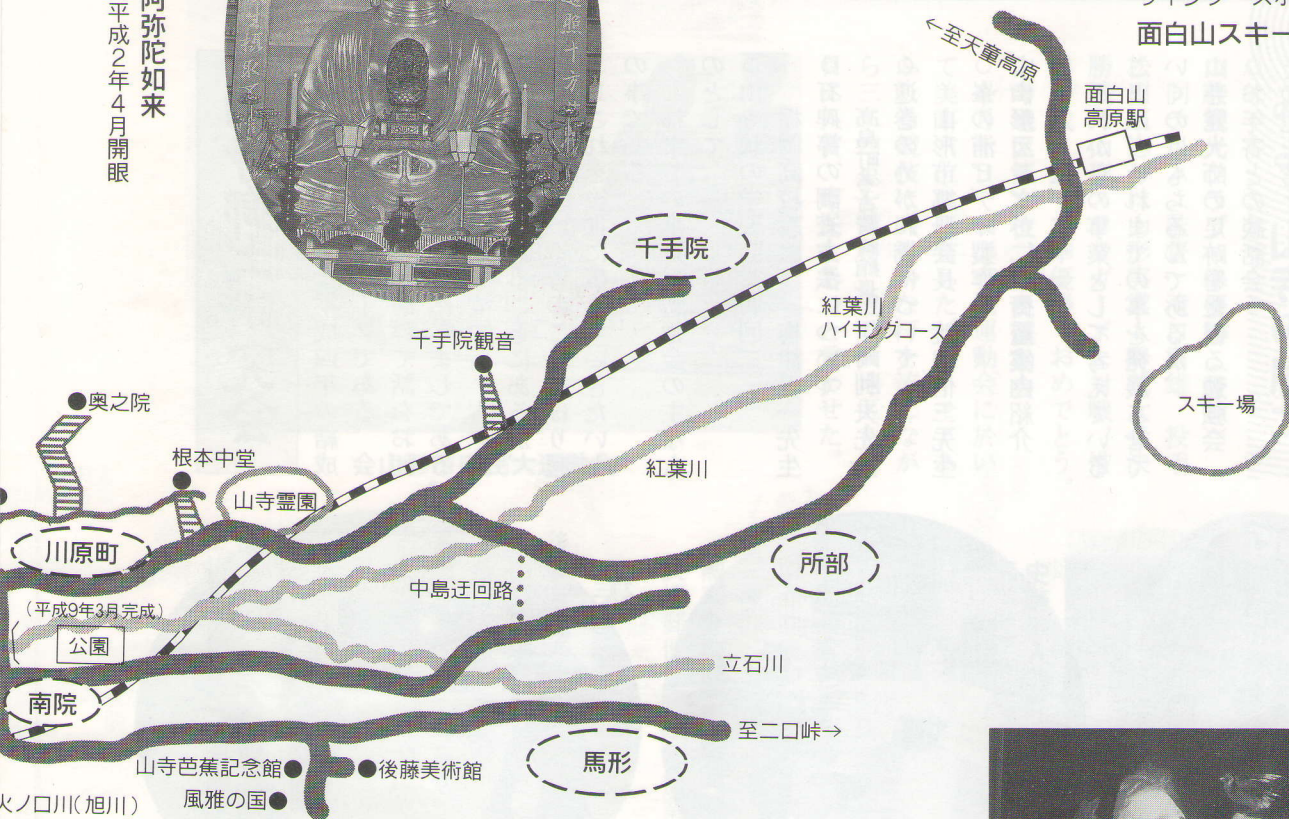


奥の院
金色丈六阿弥陀如来

平成2年4月開眼



ウインタースポーツのメッカ
面白山スキー場



「奥の細道」300年記念
山寺芭蕉記念館 平成元年7月開館



W・Aブーグロー作「愛しの小鳥」
自然を愛した画家たちの美術館
後藤美術館 所蔵
平成6年4月開館

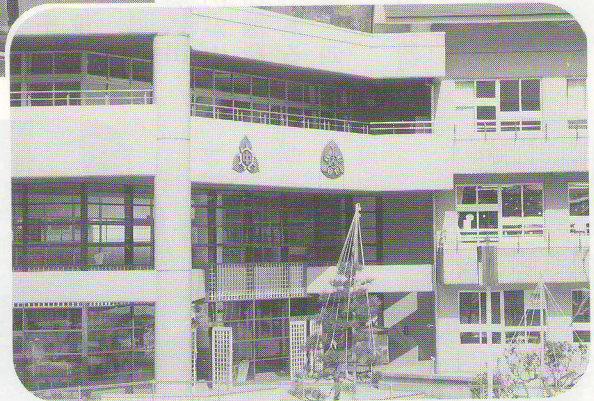
山 寺

平成9年

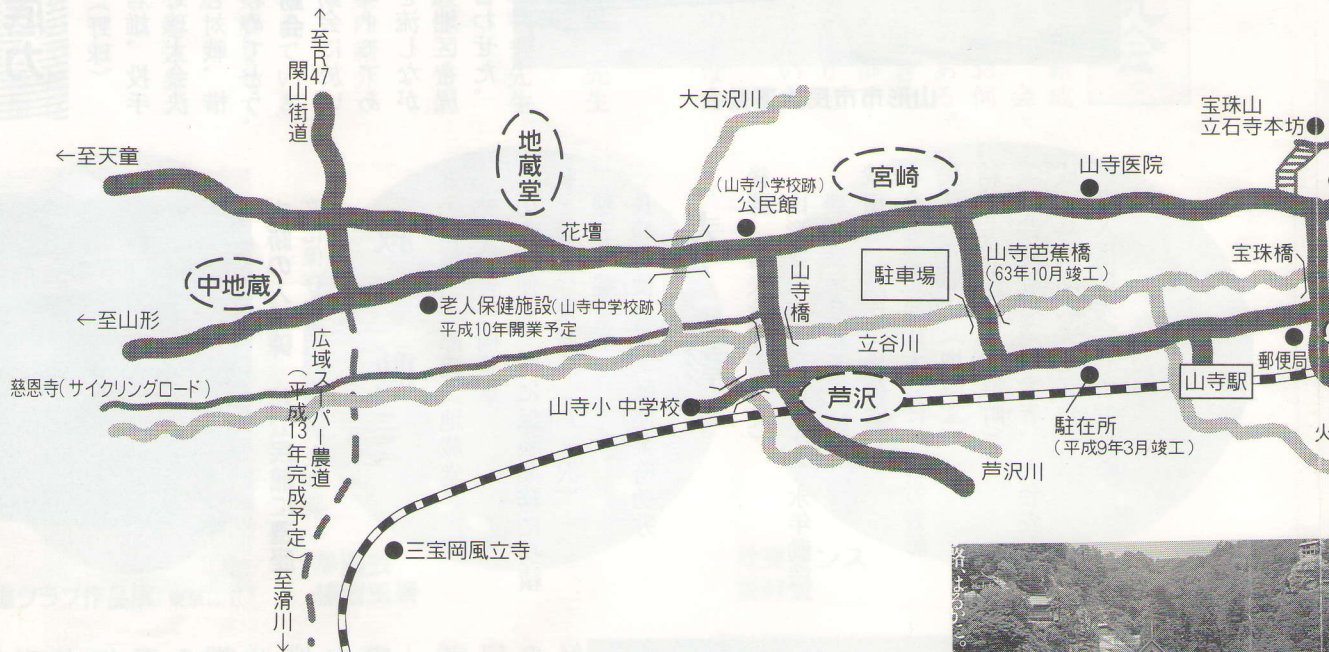
今 そして未来へ



文化の拠点
山寺公民館 平成6年4月落成



山寺小中学校
小中一貫教育の殿堂
昭和61年4月開校



天下の絶景を望む
お食事処 風雅の国

平成元年7月開苑

地区発展を夢みて

このミニコミ紙は、地区の一年間の出来事などを中心に、整理して記録したもので、地区民は勿論、地区外に出ている人々にも広く配布し、読んで頂いて交流の輪を広げ、いささかなりとも地区活性化に役立てればとの思いを込めてつくったものです。

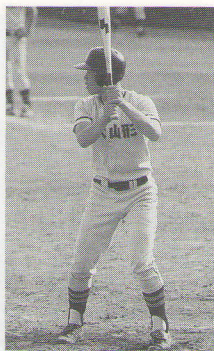
地区には、調和ある発展を図るため、その未来像について検討することを目的に、まちづくり推進委員会が組織されており、まず、山寺の将来像をまとめて公表しました。

また、昨春秋、この山寺をどう考えているのか、二十才以上の地区民を対象に意識調査が行われたので、その結果などもふまえて、地区民の理解と協力のもと、行政と一体になって夢を現実のものにしていく努力が求められます。

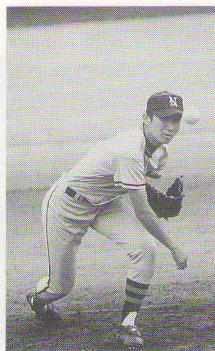
平成八年ビッグニュース

みよ 山寺の底力

日大山形高 甲子園へ



主将 伊澤 猛君



投手 武田 康之君

日大山形高校野球チームは、県大会に優勝、甲子園での全国大会に出場した。この原動力となったのが山寺中学校卒の我らがヒーロー伊澤猛君（芹沢）と武田康之君（南院）である。猛君は主将としてチームの要。四番打者で五割を越す猛打。一方康之君は低めのカーブが武器。相手打者をギリギリ舞させた。県大会決勝では対羽黒戦七対二の圧勝、甲子園では徳島の新野高と対戦、2対0の惜敗であった。



山形市市民大運動会

山寺観光クラブ・準優勝（野球）
同チーム（監督 滝口君雄、投手 松田正志）は山形実業人野球大会決勝戦で山形スラッガーズと対戦、惜しい哉2対4で準優勝。おめでとう。
山寺地区第六位、市民運動会
十月十日、山形市民運動会に於いて美事六位に入賞した。ユーモアあふれる競技に爽やかな汗を流しながら三二四点を獲得、他の大地区を尻目に入賞、市民をあとと言わせた。



史跡の人の碑 新公民館に遷座
文化保存会提唱、振興会事業

叙 勲

春・布施 一郎氏（地藏堂）

勲七等青色桐葉章

山寺郵便局、特に保険業務に功績

秋・滝口 末蔵氏（芹 沢）

勲五等瑞宝章

長崎郵便局長、郵便業務功労

表 彰

後藤 哲夫氏（千手院）

山形県農業委員大会にて永年勤続

農業会議会長表彰

武田 誠氏（地藏堂）

交通安全県民大会にて功労表彰

矢萩 八郎氏（地藏堂）

結城 栄氏（川原町）

社会福祉事業功労者、大会表彰

成山兵次郎氏（地藏堂）

老人福祉大会、功労表彰

山寺の蟬 日本の音風景百選に

閑さや岩にしみ入蟬の声

松尾芭蕉随一の名句と讃えられているこの句にちなんで、山寺の蟬が日本の音百選として環境庁から選定された。山形県からは三件、山寺の蟬、羽黒山の法螺貝、最上川の白鳥である。（平成八年七月）

花壇、優秀賞

地藏堂追分の一角に花壇ができた。地区振興会役員の奉仕である。山形市から花壇の部優秀賞受賞。

家政科教室一棟を贈る

マニラ市郊外ラバユグ小学校に教室一棟を立石寺の清原浄田氏が寄贈。同校には「いふ部隊」の慰霊と友好の碑が移転されたが、その御礼と友好発展を願っての事。



市音楽祭で奨励賞
女性合唱団「ふうが」

宝珠のしずく

仙山線沿いに位置する集落、中心部に踏切があり、仙山線とその踏切が集落発展を遅々たるものにしていく。しかし澄んだ空気、清らかな水、緑豊かな自然等、居住環境は素晴らしい。戸数五十二戸、人口は別掲のように二百十三人で、六十五歳以上は三十二%を占める。

地区内には、最上三十三観音二番札所があり、峯浦遺跡と垂水不動尊、材木岩の景観や岩の沢の赤山明神、磐司愛犬の墓、山王様などの見所がある。

おらが地区 千手院

昔は農業と山林に依存した暮らしであったが、今は勤めの生活が大半となっている。

昭和五十八年秋、

日本猿の群が初めて集落に現れたが、今では中地蔵を除く山寺全域に出没し、農作物の被害のみならず生活に被害もあって困っている。マスコミにも取り上げられ、テレビで全国放映されて話題となった地区である。

	総数	15才以下	16才～64才	65才以上
男	103	20	56	27
女	110	13	56	41
計	213	33	112	68
%	100	15.5	52.5	32.0

(単位：人、%)

山寺の文化財①

根本中堂薬師如来



中堂の御本尊、薬師如来は平安時代の作で国の重要文化財に指定されている。比叡山の薬師如来と共に日本七薬師とされ、山寺のはその第五番で、地区の繁栄と安全を見守っておられる。

お山の中でも秘佛の筆頭で、その御開帳は五十年に一回、ここしばらくの間は直接拝する事はできない。心と体の病を癒すと共に、悪縁切りの功德を与えて下さる佛様として、全国からの参拝者で賑わっている。八の日の御縁日には、六時から有志によって朝参りの会が開かれる。

おめでよう

石山さんご夫妻

(声沢)

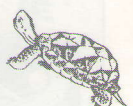
金婚さん



新婚さん

後藤さんご夫妻

(千手院)



昭和二十一年、見合結婚、子供は三人、國鉄に勤めていたので面白山の杜宅で挙式。ばあさんは優しい人でわたしにとって最高の人です。

(五郎さん)

思い出としては結婚式の時、花嫁姿で面白山に行ったが、その時同乗していた米軍兵士から写真に撮られた事。おじいさんは若い時から何でも他人の事を考え実行する人で尊敬しています。

(キヨノさん)

夫婦円満の秘訣は、の問いにただ微笑んで顔見合わせるお二人でした。(ほかに六組の金婚さんがあります。)



石山五郎さん(83才)
キヨノさん(76才)ご夫妻

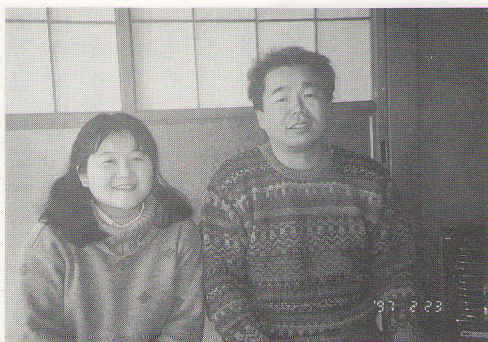
昨年四月、紹介により結婚、お互い助け合って明るい家庭を築いていきたいと思っています。泉さんとはとにかく優しい心を持った人です。

(文男さん)

実家は荒谷、高嶺にある心身障害者福祉施設に勤めています。文男さんはとても穏やかで優しい反面、我慢強く頼り甲斐のある人です。子供は二人は欲しいと思っています。

(泉さん)

明るく微笑みながら、インタビューに応じて下さいました。お幸せに。(ほかに六組の新婚さんがあります。)



後藤文男さん(38才)
泉さん(29才)ご夫妻

話題の人

百才を迎えられた

後藤 教さん（川原町）



後藤教さん（明31年1月4日生、川原町在住）に長生きの秘訣を尋ねた。「私はのん気な性分で物に拘わらない方だと思っている。好き嫌いなく何でも食べるし、ありあわせの物で充分ありがたく戴いている。」

小さい頃から山歩きが好きで、千手院のお不動様とか、馬口岩などひとりでも出かけて、山菜採り茸狩りなど自然の恵みを一杯に受けて過して来た。早寝早起き太陽の動きに合わせてたくらしをすること。」

寒中の二月とはいえ窓を開放し、何十年来カゼなど引いたことがないという。耳は多少遠くなったとはいえ、しっかりした口調であった。

ほたる会

平成八年六月発足、会員は若手ばかり二十名。会長井上順一氏、これからの山寺を考え、実践していこうとする会である。モットーは

ほ、ほのぼのした山寺
た、たくましい山寺
る、るるん気分の山寺

宝珠橋下での「いもに会」が初行事で、女声合唱団「ふうが」の出演や魚釣りを含めて地区民や観光客に大好評。五百名の参加。ニューパワーとして期待されている。



立谷川原での芋煮会

平成八年度

地区振興会役員名

（敬称略）

山寺地区振興会長	布施与惣治
町内会長広報委員	遠藤 障一
布施与惣治、	遠藤 邦雄
武田久之進、	後藤 孝一
矢萩 義春、	原田 貞雄
武田 和夫	
町内会長	川辺 治郎
布施 運蔵、	高見 昭男
遠藤弥右エ門、	武田久之進
社会福祉協議会長	川辺 治郎
衛生組合連合会長	武田 治郎
防犯協会山寺支部長	和夫
体育振興会長	遠藤 障一
教育後援会長	原田 貞雄
まちづくり推進委員長	矢萩 義春
観光協会会長	遠藤 正弘
民生児童委員会総務	布施 正俊
消防分団長	後藤 俊弥
交通安全協会山寺支部長	武田 誠
老人クラブ連合会長	遠藤 正治
子供育成会連合会長	矢萩 久義
関係機関	
山寺小中学校長	新関 嗣朗
山寺郵便局長	後藤 賢一
山寺駐在所	相田 俊幸
山形農協山寺支所長	丹野 寿一
山寺駅長	石谷 憲一
山寺芭蕉記念館長	渡部 勝雄

山寺芭蕉記念館事務局長
山寺公民館長

事務局長

主査

主任

三浦 孝之
伊澤 貞一
武田 秀男

鈴木 典子
柴浦 雅知

編集後記

『立谷川の清流も、始めはほんの一滴のしずくが重なり合って、水となり流れとなったように、この「宝珠のしずく」も、未来へのステップとして、この後、号を重ねて我が山寺になくってはならない存在にしていきたい。』とのメッセージを山寺地区振興会長から頂いております。

さて、「宝珠のしずく」創刊号、いかがだったでしょうか。素人ばかりで思うようにはいきませんでした。したが、精一杯やってみました。

これから毎年一回、三月末に発行を予定しておりますので、皆さんのご感想、ご意見など公民館宛にお寄せ頂ければ嬉しく思います。尚、取材にご協力下さいました方々に心から厚くお礼申し上げます。

編集委員 後藤 哲夫

伊澤 貞一

武田 誠